

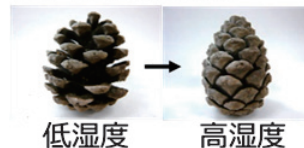
研究概要

生物機能を模倣した新機能および高付加価値材料の開発とその応用—松かさ模倣材料—

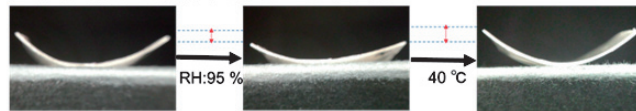
生分解性プラスチックは土壤中の微生物により最終的に水と二酸化炭素まで分解される環境調和材料である。しかしながら、その特性が欠点となり工業的には広く普及されていない。そこで本研究では生物の優れた機能を模倣した生分解性機能材料を開発し、高付加価値材料として新たな実用性を見出すことを目的としている。

松かさの鱗片は湿度が高い時は閉じ、湿度が低い時に開く機能を有している。これは鱗片の内層と外層で収縮性が異なることが影響している。水分を含むと外層が膨潤しやすく、それに伴って形状が変化する。本研究では吸湿による収縮率の異なる生分解性プラスチックを層構造とすることにより、吸湿可変材料を実現する。

松かさの開閉現象



湿度変化で形状を変える材料



今後の展開やメッセージ

今後は、実用化のための環境試験や生分解性アクチュエーターとしての新規用途の開拓を考えています。是非、お気軽にお問い合わせください。

研究者情報



谷田 育宏 講師・博士(理工学)

バイオ・化学部 応用化学科

所属研究所：ゲノム生物学研究所

金沢工業大学工学部先端材料工学科卒。同大学大学院工学研究科修士課程(材料設計工学)修了。セーレン(株)入社。自動車

車内装材商品開発(加飾/パネル開発)勤務を経て、2014年本学講師就任。

研究者情報URL

<http://kitnet10.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RBEACA.html>

Keyword

生分解性プラスチック / 生物機能模倣 / 環境調和材料